

# 悠久録

## 『あいや日本語』

新潟県ことばの会・新潟県方言研究会会員で、長岡市上桐に住む柄沢衛氏がこの度『続・あいや日本語』を出版することになった。「あいや」はE Y E（目）とE A R（耳）とを合成した氏の造語である。「日々、見たり聞いたりする言葉の中から気になることば心に残ることばを記録したもの」という。氏はすでに『ことばの小径をゆく』『あいや日本語—ことばのメモ帳』（いずれも雑草出版刊）を出版している。

今回はその続編で平成28年4月から29年8月までのことばを拾っている。この中では、日常の新聞・雑誌・テレビはもちろん流行語・方言・地名・俳句・動植物などあらゆる言葉にアンテナを張ってことばを拾う

私は氏をことばの狩人・ワードハンターと呼びたい。一つのことばが目につくと、それを徹底的に調べ上げ、とことん追求する。そのことばへの氏のこだわりにもいつも敬服させられる

山の麓に湧き出る冷たい清水は、地名にもなっているので意識していなかったが、関西では「清水」でなく泉と呼ぶ。そういえば大阪に「和泉」という地名がある。富山・石川・福井などでは清水を「ショーズ」という方言が存在する。これは「手水」が「チョーズ」に変化したように「み」がウ音便化したものという

「言いにくい言葉」の項目に日本語なのに言いにくい言葉のベストスリーは「手術中」「骨粗鬆症」「過失致死傷」という。これはテレビからの取材である。読み進めていくと思わず言葉の森の中にはまり込んで時間を忘れてしまう

(ひこぜん)